(様式2)新規評価シート 建設部 砂防課 事業名 砂防(涌常砂防) 路河川名等 中条川 事業毎の通番 11 市町村名 栄村 箇所名(ふりがな) 中条(なかじょう) 本渓流は、H23.3.13長野県北部の地震により大規模な山腹崩壊が発生し、約200万m3の不安定土砂が堆積、天然ダムが形成され た。このため、平成24年度までに砂防堰堤1基と床固工1基を設置したが、H25.9.16台風18号により土石流が発生し、土砂が村道へ 流出した。上流部には未だ約40万m3の不安定土砂が堆積しており、次回降雨により国・村道等への被害のおそれがあるため、村道 的 や農地への土砂流出を防止を目的として、導流堤を設置する。 しあわせ信州創造プラン 4-1 地域防災力の向上 事業実施の 砂防法 における位置付け (災害に強い地域づくり) 根拠法令等 関連する事業、計画等 上流部は治山事業で整備を実施 保全対象 人家16戸、国道117号、JR飯山線 保全対象·範囲 受益対象·範囲 概 着手年度 H23(H25.26休止) 事業期間 4年間 財源内訳(千円) 事業費 要 (千円) 完成年度(見込み) 費用対効果 2.7 国庫 一般財源 H28 その他 県債 砂防堰堤 1基 床固工1基 導流堤 2基 全体事業内容 334,000 167,000 150,300 16,700 (主な工種) 年度事業内容 詳細設計一式 43.900 21.950 19.755 2.195 (主な工種) 導流堤1基 土石流災害から、人家16戸、国道、JR、村道を保全 直接的効果 (定量的・定性的) 間接的効果 (定量的・定性的) 【保全人家戸数】 16戸 評価 【保全公共施設】 国道117号、JR飯山線、村道 必要性 В 評価 【災害履歴】 平成23年3月長野県北部の地震およびH25.9台風18号により土石流が発生 【交通影響】 国道117号、JR飯山線、村道 重要性 【位置付け】 地域防災計画に位置付けあり(土石流危険渓流) 【費用対効果】 2.71 評価 【早期効果発現】事業期間:4年間 効率性 の 視点 【工法等比較検討】 堰堤配置、形式等について比較検討 Α 【総合調整】 治山事業と調整済み 【地形地質】火山岩 大規模な山腹崩壊あり 評価 【流域植生】なし 緊急性 【平均渓床勾配·土砂整備率】 勾配:約6° 整備率:88% С 【危険地区】 指定なし 【情報共有】 関係者以外にもを周知 評価 【地域要望】 地震による崩壊以降積極的な取り組みがある 計画熟度 【地域合意】 事業目的については合意形成が図られている 【住民参加】 避難体制が確立している 評価結果 総合評価 H23.3の長野県北部地震により 当該渓流は、地震に伴う山腹崩壊により、 大規模な山腹崩落があり、大量 部意見 不安定土砂が多く堆積しており、速やかな 行政改革課意見 の不安定土砂が堆積しているこ 0 В 土砂災害対策が必要である。 とから、重要性が高い。

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)





【整備の必要性がわかる状況写真等】

業

概要説

明

义





事業周辺環境	①事業実施に至る 歴史的経緯・ 社会的背景	本渓流は、H23.3.13長野県北部の地震により大規模な山腹崩壊が発生し、約200万m3の不安定土砂が堆積、天然ダムが形成された。このため、平成24年度までに砂防堰堤1基と床固工1基を設置したが、H25.9.16台風18号により土石流が発生し、土砂が村道へ流出した。上流部には未だ約40万m3の不安定土砂が堆積している。			
	②地域からの要望経緯 及び地域の関わり	H23.3長野県北部の地震により、大規模な山腹崩壊が発生したことから、早期復旧を望む声は強い。			
	③事業説明等の経緯	H23.3長野県北部の地震以降、広範囲に事業説明を行っている。			
	④他事業・ プロジェクトとの 整合、関連	上流部は治山事業により整備を実施している。			
	⑤自然環境・ 生活環境への 影響と配慮	周辺環境への影響を抑えることを念頭に設計・工法等比較検討を行う予定である。			
	⑥地域活性化への 影響と配慮	H25.9の土石流発生時にもJR飯山線が運休しており、地域経済に与える影響が大きいため、早期に土砂対策を進める必要がある。			
	⑦その他	砂防指定地申請済み	事業代表地点 の緯度経度	北緯:N 36°59′48″	
				東経:E 138° 34′ 00″	